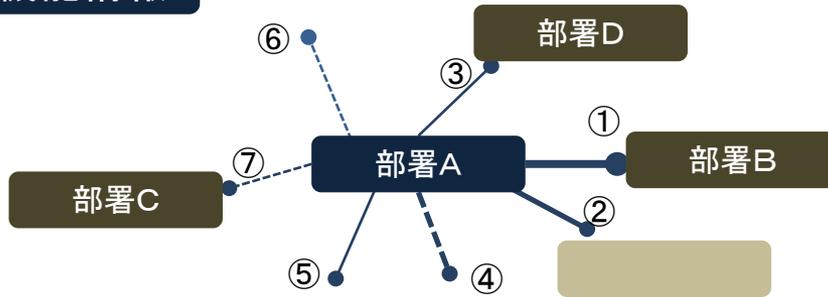


# 遺伝子情報となる部署業務

1部署の業務や機能が他の部署に影響し、他部署の機能を誘発する。

## 組織内機能情報



多数の部署同士が影響し合い、連携する。1部署の機能が、他部署の業務を促進する。組織は、物理的連結から生物的連結へと変形し始めている。知識が業務の中心になり、業務の意味がつながっている。情報組織となる所以である。**組織が情報組織としての認識を持つとき、外部情報が組織内を円滑に巡り、成果を上げる。**

1つの部署には必ず複数のアウトプットの出し方があり、他の部署からの要求がある。同時に、自部署が他部署に対して要求している事柄がある。以下のように分類され、他部署に対しての関連性を示し、他部署の業務を規定している。

- ①主たる業務で、部署名を代表する。次の工程を引き渡すための結果、または、外部へ出す最終段階になる商品またはサービスである。
- ②主力業務と交代できそうな内容で、すでに、主たる業務と並立しつつある。
- ③特殊な業務 支援的業務で、主たる業務を進めていて発生した。
- ④検討中の手法、技術、アウトプットで、業務の方法を変える可能性がある。
- ⑤失敗した業務の方法や結果。DBとして蓄積されているはずである。
- ⑥終わってしまっているが、未だに執着している技術、結果の出し方である。しかし、何かの機会に使える可能性がある。
- ⑦主たる業務になる可能性があるが、現在の状態では未熟である。何かを付け加えれば、業務として成立するかもしれない。 etc.

**組織内障壁は、組織の力を弱めるだけでなく、組織の存在を危うくする。組織内障壁を徹底して排除するようにしなければならない。**

営業

開発研究

経営企画

広報

財務

市場調査

人事

生産

総務

etc.

大雑把に組織に存在する部署を挙げた。名称、部署区分は組織によって異なる。

それぞれの部署から他部署を眺めて、関連性を検討してみる。すべての部署は、他のすべての部署と何らかの関係があるはずだ。関係性の強さは別にして、どれかがなくなれば、業務に支障をきたすはずだ。

むしろ、関係が無いとする者が、自らの職務を理解していない証しになる。

各部署は他部署と如何にかかわっているかを検討してみると良い。

自部署が他部署に関わっている内容、他部署から、自部署を支援している内容を列記してみる。列記した内容をみれば、業務内容と進捗、考え、行動、成果を伝えるべきであると理解できるはずだ。(情報組織になる要である。)

名称は50音順